

特製スケルシ[®]95 マシン油乳剤

**特長: 落葉果樹、かんきつ類のカイガラムシ、ハダニ類退治に最適！
越冬害虫を退治します。**

うめの枝についたウメシロカイガラムシ



カイガラムシが原因 みかんのすす病(※)



※すす病は、カイガラムシの排泄物などを餌に繁殖するカビの一種で、光を遮り成長を阻害

【成分】 マシン油95.0%
乳化剤等5.0%

【性状】 淡黄色澄明可乳化油状液体

【適用害虫と使用方法】

*印は、本剤及びその有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用時期	総使用回数*	
				本剤	マシン油
かんきつ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30~45	冬期	—	—
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ、ハダニ類	100~200	夏期		
落葉果樹 (なし、りんご) (かき、もも)	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及び その越冬卵	16~24	—	—	—
落葉果樹 (ぶどうを除く)	カイガラムシ類	12~14			
桑		30~45			
りんご (北部日本) (芽生前に 散布の場合)	カイガラムシ類	30~45	発芽前	—	—
もも	アブラムシ類	25			

【使い方】 散布



効果・薬害等の注意

- 調製した薬液は速やかに散布する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤(※1)、TPN剤(※2)等の水和剤及び銅剤との混用はさける。
- 高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行う。
- 散布直後の降雨は効果が低下するので、特に冬期散布においては、好天の続くときに使用する。
- かんきつに使用する場合は以下の事項に注意する。
 - 散布後、葉(特に旧葉)に油浸斑を生ずることがあるが日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはない。但し、樹勢が弱っている場合には散布しない。
 - ジチアノン剤との近接散布は果樹に薬害を生ずる危険があるのでさける
 - 3月に使用するときには、なるべく早めに散布する。この場合石灰硫黄合剤の散布はさける。
 - ジメエート剤との混用は、ヤノネカイガラムシ第一世代防除時期には、樹勢により落葉を助長することがあるのでさける。
- もものアブラムシ類を対象に散布する場合、モモアカアブラムシなどの休眠卵で樹上越冬するアブラムシ類を対象に発芽前に使用する。
- うめに使用する場合には落葉期での散布はさける。(落葉期＝落葉している期間)
- 桑に使用する場合には、発芽後に散布すると薬害を生ずるので、冬季又は夏切直後に使用する。
- 落葉果樹に使用する場合は以下の事項に注意する。
 - 芽が動き出してから散布すると薬害を生ずるおそれがあるので、発芽前に散布する。
 - 樹勢が弱っている場合は薬害を生ずるおそれがあるので散布しない。
- 自動車などの塗装面にかからないようにする。(塗装汚染・変色)

魚毒性等・・・河川、養殖場等に飛散、流入しないよう注意。(魚類・甲殻類)。
散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さない。

- ★ 飲めません
- ★ 有効年月内に使用する。
- ★ 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。
- ★ 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努める。
- ★ 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
- ★ 移送取扱いは、ていねいに行う。

保管・・・密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光のあたらない冷涼な所。

(※1)ジチアノン剤 商品名 デランフロアブル
(※2)TPN剤 商品名 ダコニール1000 ダコレートなど

安全性 : 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 : 500ml

有効期限 : 5年



 **NICHINO**
株式会社ニチノ緑化
東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号